

アブラハムは、その場所の名をアドナイ・イルエと呼んだ。今日も、「主の山には備えがある」と言われている。

創世記 22章 14節

「神様はどうしてこのような経験をさせられるのか」と思うことはクリスチャン誰でもあるものです。願いが叶わずつらく感じることや不幸と思える事に遭遇したり、或いは大切な人との地上での別れ：など。すべてが思う通りになるとは思わない。でも、もう少しなんとかならないのですか、と嘆くことがあります。

「あなたが愛しているひとり子イサクを：献げなさい」(1)と告げられたアブラハムの胸中はいかばかりだったでしょう。

その神の言葉に従ってアブラハムは示された地モリヤを目指しました。ペエル・シエバからモリヤは登り道です。その足取りはどれだけ重かったことでしょう。かつて、

神様はイサクによってアブラハムの子孫を祝福し繁栄させると約束されました。神の約束と目の前の厳しい現実をどうしたら折り合いを付けられるか：。理性では理解しきれずに戸惑うばかりだったでしょう。その状況でもアブラハムはただひたすらに

「神ご自身が：備えてくださるのだ」(8)と主にお頼りしています。それは盲目的な思い込みではなくて、これまでの自分の信仰の足跡を振り返りながら、人間の思いを越えて神様は働かれたという事実に基づいた神への信頼です。アブラハムは神が示された地に「目を上げ」(4)続け、そしてみことばに従い続けました。その先で彼が「目を上げて見ると」(13)そこには主の助け

が備えられていたのです。

モリヤの地、そこはのちにイエス様が十字架に架けられる場所です。そこは、神ご自身にとって理不尽極まりない場所です。人間の罪のために、罪のない神の子を十字架に架けたのですから。理不尽と思うような経験をするとき、神が私たちのために理不尽な十字架を経験されたことを思い出しましょう。私たちが理不尽な現実に苦しむとき、神様は十字架の苦しみの故に共感してくださるのです。そして私たちに逃れの道も備えてくださいます。アブラハムが神の言葉に従い抜いたときに、彼は神の救いを経験しました。私たちは十字架と復活が聖書が伝える歴史的な事実であることを根拠として主に信頼しましょう。そこに人間の理解を超えた神の大いなる救いを知る道があるのです。(泰)

・病床の方々のためにお祈りください。

・ウクライナ支援献金に多くの方がご協力くださり感謝です。

【有志ボランティアによる無料食品配布への寄付募集】

配布日 4月2日（土）

寄付食品募集 3月中は毎日曜日に

教会玄関に回収箱設置

問い合わせ 山口光兄

【本日の配布物】

・4月祈祷カレンダー

いよいよ教会も新年度が始まります。受難週、イースターもあります。コロナ禍が社会を覆い、世界はウクライナでの戦争の影響を受けています。しかし、私たちのために罪の世を共に生きてくださったイエス様を見上げ祈りながら進んでいきましよう。

・2月教会会計報告

2月末時点での累計赤字は大きな金額です。しかしこの状況を兄弟姉妹が覚えてくださり、実際に3月には多くの献金が献げられています。結論は年度末での決算になりますが、主が必要を満たしてください。と信じてお祈りください。